

”心にのこる歌” 応援します。

不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーン

1997～2000年
REPORT



”心にのこる歌” 生まれつづけてほしい。

カラオケの出現から早 20 年以上の年月が経ち、20 世紀日本の代表的文化の一つに数えられるほど、カラオケは広く一般大衆に受け入れられ定着しております。憧れの歌手やアーティストの歌を映えある舞台上でその歌唱を披露する、そんな最高の喜びを与えてくれるのがカラオケです。

歌には歌を創った作詞・作曲家やその歌を世の中に広める役割を担う歌手・演奏家・レコード製作者の権利である著作権・著作隣接権があります。

その権利を無視し、無断で使用するなどの不法録音カラオケ教室を中心とした音楽教室などで数多く見受けられ、このままでは日本の歌である演歌・歌謡曲の行末が心配されることから、音楽関連 10 団体が 1997 年 5 月に「カラオケ教室不法録音物対策委員会」を発足させ、「不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーン」を 4 年間にわたり展開してきました。

設立当初は「なぜダビングしてはいけないのか」「コピーをして何が悪いのか」などの質問が数多く委員会に寄せられてきました。

そのため委員会では、全国規模の TV やラジオ、新聞による広告、懇談会や説明会・講習会、トーク&コンサートなどの広報活動を数多く行い、また全国に調査室を設置し、専任調査員が一軒一軒直接訪問する調査活動も積極的に行ってまいりました。

このような活動と歌を愛する皆様のご協力のおかげで、著作権や不法録音問題についての理解が大きく広がり、その結果が不法録音の減少、市販商品使用の励行、それに伴う演歌・歌謡曲の売上げ増加などにつながり、演歌・歌謡曲を取り巻く環境は徐々に活況を取り戻しつつあります。

その一方では社会も急速に変化を遂げ、趣味の多様化やデジタル技術の発達など、歌を楽しみ、安らぎ、感ずることは変わらないにしろ、その楽しみ方は変化しています。

しかし、人の心に残るメロディーは、時を超え、世代を超えていつの時代も末永く愛されていきます。その愛する歌の権利である著作権・著作隣接権も大切にしていきたいということが我々の願いなのです。

著作権思想の普及活動には終わりはありません。音楽の未来を明るくするために、今すべきことはまさにこの活動を続けることであるという事をご理解いただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

カラオケ教室不法録音物対策委員会
委員長 木村 三郎

“歌、想い…そして出逢い”

2000 トーク&コンサートより「未来の演歌・歌謡曲」

In 札幌

彩木雅夫(作曲家)



我々はかつて、モダンジャズや海外からやって来た音楽を聴いて育ってきました。ところが、いつしか演歌・歌謡曲に心を奪われこの仕事に携わるようになりました。若い世代の方々も、いつか J-POP と演歌・歌謡曲という音楽の垣根を乗り越えるときが来ると思います。決して悲観することは、ないでしょう。しかし、歌にこめられたメッセージを伝えることが出来、次の世代を担う歌い手さんが、少なくなってきた様に思えてなりません。歌を世に送り出す側の、大きな課題ではないでしょうか？

荒木とよひさ(作詞家)



お祭りを例にたとえると、わかりやすいと思います。お祭りは決してすたれませんが、長い歴史とともに日本人にとって、なくてはならないものとして、生き延びてきました。同じ様に、日本人が日本人としての意識を持っているかぎり、演歌・歌謡曲は残っていくでしょう。もちろん、歌詞やメロディーなど、その形は少しずつ変わっていくでしょうが、今、演歌・歌謡曲が厳しい状況にあることは、事実です。ならば、私たちがもっと日本人の心にうったえる歌を作ればいいのです。

In 仙台／新潟

鈴木 淳(作曲家)



作家は、常に新鮮で、我々自身が感動できるような魅力的な作品を創りだしていかなくてはなりません。それが演歌・歌謡曲が 21 世紀に生き残る方法の一つだと思います。たとえ当初は売れなくても、良い作品は必ず命が吹き込まれ、”歩き出していく”と信じています。そしてカラオケファンの皆さんは、歌い易い同じ様なメロディーの曲ばかりでなく、いろんな歌に挑戦していただきたい。また不正ダビングはせずに正規の商品を買う事は、演歌・歌謡曲を育てていく事になるという認識を持って欲しいと思います。

In 仙台

たきのえいじ(作詞家)



歌詞の世界からみて、風化させたくない景色が日本には沢山あります。百年前も、百年後も雨は同じ様に降り、人々は同じ様に思いを馳せている。そんな日常の空気、匂いを取り込んだ作品を、残していきたいと思っています。自分達の世代がそれをしないと、誰が受け継ぐのだろうと危機感をもっています。また日本だけと限定せず、アジアワールドと考え、新しい挑戦をしていきたいと思っています。

In 仙台

大谷明裕(作曲家)



日本で生まれた演歌・歌謡曲は、日本人が守るべきだと思います。いろんな意味で、その良さをわかっているのは、私たち日本人なのでから。そして私の年代は、次の世代の作家にその素晴らしさを繋ぐ役目を、果たさなければいけません。また先輩方が残した演歌とは別に、今の若者の生活にマッチし、共感できる世界を持った歌謡曲を、考え提言していきます。そうすることで、21 世紀の演歌・歌謡曲の明るい未来を作り上げることになると思います。

In 新潟

遠藤 実(作曲家)



●歌は人生の友

美しい日本の言葉を、メロディーに生かし、時代のリズムに乗せることによって、聴く人の心にしみ込んでいきます。一度心に入った歌は何年経っても外には出ていかないものです。私は、長く心に住みつき、思い出を連れてくる歌づくりを目指したいと思っています。歌というものは、半年や1年の命で終わってはならないのです。歌謡曲も、アレンジによって品格を高めれば、シンフォニーと同等です。

誰もが口ずさむことができ、長く心に刻まれる、そんな歌をこれからも大切にしていきたいと思っています。

いではく(作詞家)



若者は、リズムのある音楽を好むものです。私自身、大学時代はプレスリーやポールアンカ等を聴いていました。しかし社会に出て、初めて演歌・歌謡曲の素晴らしさに惹かれていったのです。現代の若者も年を重ね、やがて理解できるようになると思います。ただし、旧態依然とした今までの様な演歌・歌謡曲は、そのまま残ることはないでしょう。「歌は世に連れ」という言葉のとおり、時代や生活様式の変化に即した、演歌・歌謡曲が生まれているはずですよ。

①「不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーン」活動の経緯

音楽関連 10 団体によって、1997 年 5 月に発足した「カラオケ教室不法録音物対策委員会」は不法録音をなくし、日本の音楽文化を守るため、「不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーン」を展開してまいりました。

まず、全国 6 ヶ所に専任の調査室を設置し、調査員をそれぞれに配置し、カラオケ教室の実態調査を実施いたしました。

また、不法録音に関する問い合わせや、情報を受け入れる機関としてフリーダイヤルを設置し情報収集等の対応を行いました。そのフリーダイヤル等による情報取得数は 4 年間で 1,315 件となっております。そこで取得した情報を元に不法録音行為を行っている違法教室への訪問による指導・警告を行いました。

また全国のカラオケ教室および講師の名簿を入手しました。教室リストは 11,000 件、講師リストは 4,000 人に及び、訪問調査と同時にリーフレットの配布などを行いました。

一方、広報活動も全国的に展開いたしました。全国紙、地方紙、スポニチ全国版、業界紙、カラオケ専門誌他に広告を掲載、TVCF、ラジオ CM でのキャンペーン広告を数々の番組に提供およびスポットを打ちました。

また、カラオケ愛好者の皆様との交流を深める作家・歌手出演のトーク&コンサートを、北は札幌から南は熊本まで全国 10 ヶ所で開催し、不法録音問題をアピールしました。

カラオケ教室関係者や報道関係者と直接に話し合う懇談会は福岡、広島、仙台、札幌で開催、著作権講習会も全国 80 ヶ所で開催し、著作権や不法録音問題についてお互いに理解を深め合うことができました。リーフレットや委員会活動をまとめたキャンペーン REPORT もカラオケ関係者をはじめ一般に広く配布しました。

②「不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーン」活動による具体的成果

カラオケ愛好者の多数をしめる中・高齢者層への著作権思想の普及活動は、演歌・歌謡曲の不法録音問題について改めて考え、認識して

いただくことになり、著作権を身近に感じてもらうことに成功しました。

また、1997 年委員会設立時推定 3.0%といわれていたシェアが 1999 年度は約 5.0%にまで伸び、また、5 万枚（本）以上売上シングル数が設立以前に比べて着実に増加しているという調査結果もあります。また、オリコンデータにより 2000 年の演歌・歌謡曲部門の健闘などが伝えられています（2000 年 1 月からの演歌・歌謡曲の売上指数が上昇している）。

並びに、全国の演歌・歌謡曲を取り扱っているレコード店に行ったアンケートの結果では全回答数 359 店の内、キャンペーン効果として「演歌・歌謡曲の売上が増加している」と答えた店は 59%、「不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーンの効果を実感している」と答えた店は 75%、「カラオケ教室関係者によるまとめ買いが増加している」と答えた店は 44%となっており、これははっきりとした形でこのキャンペーン効果が現れている証拠です。

また、カラオケ教室やサークル、同好会などがよく利用する公民館や集会所などを管轄する地方自治体には、キャンペーン活動の理解と協

力を要請する訪問活動を行い、リーフレットの配布やポスター掲示の依頼をしました。

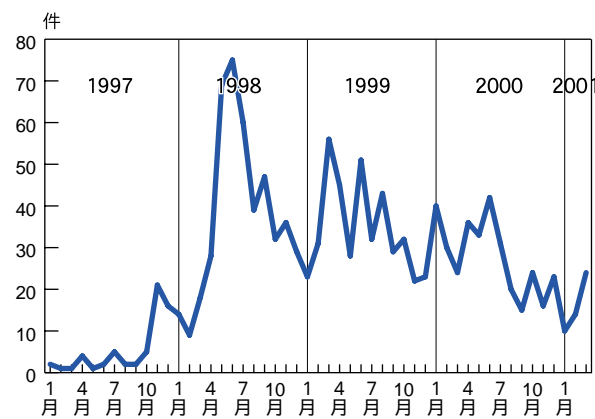
カラオケ大会においても、主催者が参加者に不法録音問題を訴えるなどの協力を頂き、また、大会告知チラシで市販商品使用を条件にする大会も増えてきております。

このように「不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーン」により、演歌・歌謡曲を楽しむ皆様に末永く唄い、楽しむ事が出来る環境が整って参りました。しかしこの運動が浸透すればするほど不法録音は形を変え、姿を変えて存在し、このことは絶え間無く不法録音情報が提供されてくることに裏付けられ、更なる録音物もカセットテープというアナログ録音からデジタル録音へと移行する傾向にあります。

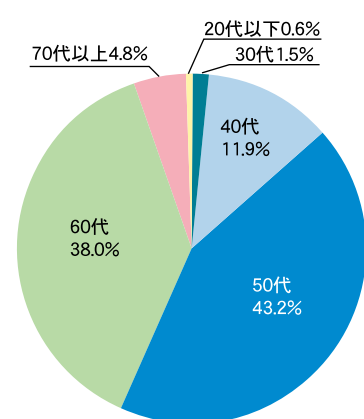
いつの時代になっても不法録音に対する権利者の姿勢が変わり無く、この運動を継続していくことによって、より健全で明るい音楽の未来を築いていくことが、権利者及び当委員会に課せられた課題であり、活動の目標ですので、是非ご理解とご協力をお願い致します。

カラオケ教室不法録音物対策委員会 事務局

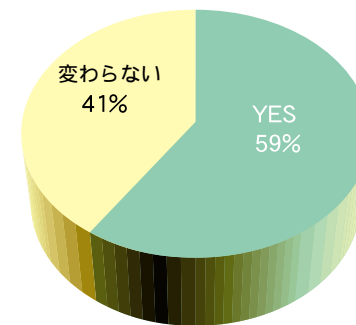
フリーダイヤル情報数推移 (1997.1 ~ 2001.3)



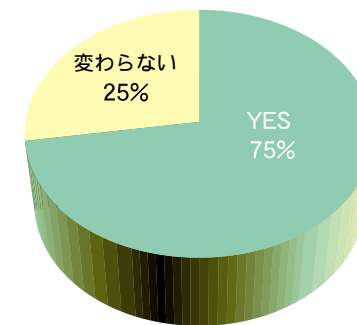
カラオケ教室年代別構成



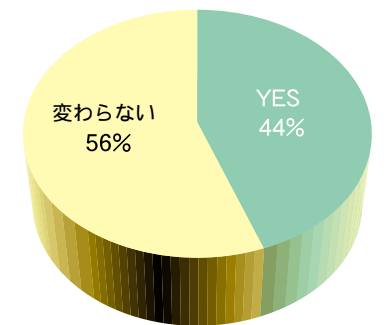
Q：演歌・歌謡曲の売上は伸びている



Q：不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーンの効果はある



Q：カラオケ教室関係者によるまとめ買いが増えている



～カラオケ教室実態調査活動総括～

カラオケ教室不法録音物対策委員会では全国のカラオケ教室や愛好会やサークルの実態について調査しました。この実態調査により今まで明らかでなかったカラオケ教室の実態が明らかになってきました。

○調査期間:1997年5月～2001年3月

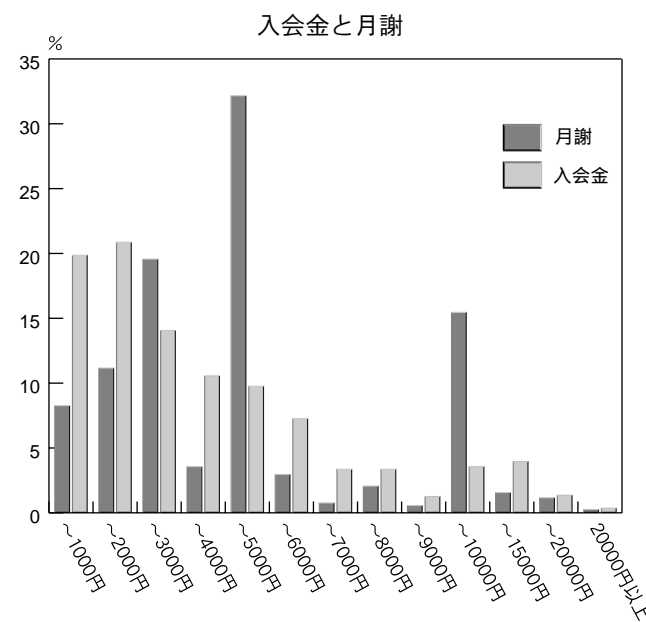
1. カラオケ教室実態調査結果

①カラオケ教室、愛好会・サークル数

現在カラオケ対策委員会で把握しているカラオケ教室数は約11,000件で、その約6割は名古屋以西が占めており、カラオケが盛んであることがうかがえます。また、全国のカラオケ教室の先生や講師（世話役や幹事など含）と呼ばれる人は約4,000人を数え、先生一人当たりにつき2～3教室（講座）を所有していることとなります。

また、そのカラオケ教室の先生・講師などで組織されるカラオケ団体は全国各地に約220団体あります。

※件数は全て2001年3月現在



②生徒数、教室の面積など

カラオケ教室、愛好会やサークルなどで、平均的なカラオケ教室1クラスには35人くらいの生徒が所属しています。この内ほとんどが年齢50代から60代が占め、唄う曲もほぼ演歌・歌謡曲で占められています。また、平均的なカラオケ教室のレッスンは16～17坪程度のスペースで行われています。また、入会金や月謝の平均はほぼ3,000円～5,000円くらいが大半を占めています。

③レッスン方法

レッスンの時間は個人レッスンなら30～40分が平均的なレッスン時間、グループレッスンなら2時間くらいです。また、レッスン時に使う音源はカセットテープが主で、約7割を占めています。その他CD、LD、通信カラオケの順になっています。また、楽器を使ってレッスンする教室では、主にピアノやギター、キーボードなどを使用しています。平均的なカラオケ教室1講座の月別開催数は3～4回（毎週1回弱）です。その中で課題曲を決めてレッスンする教室は約半数の5割弱で、1ヶ月に約1曲の課題曲を決めてレッスンをしています。（月平均1.3曲の課題曲）。

2. レコード店アンケート結果

演歌・歌謡曲を取り扱っている全国359店のレコード店にご協力をいただき、キャンペーン活動に関するアンケートを行いました。

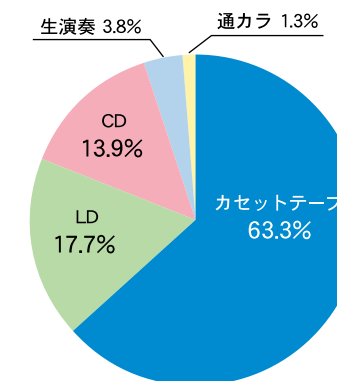
「演歌・歌謡曲の売上が伸びている」と感じているレコード店は全体の59%、「不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーンの効果があつた」と感じているレコード店は75%との回答でした。また「カラオケ教室関係者による“まとめ買い”が増えている」と感じているレコード店は44%でした。（グラフについては前頁参照）

3. カラオケ大会の実態調査結果

調査したのは63件のカラオケ大会で、その中で1本もダビングテープを使用していなかった大会は全体の約70%を占めました。この活動を展開する前は、どのカラオケ大会もダビングテープを使用していたという状況から考えると我々の活動により演歌・歌謡曲を愛するカラオケ教室関係者の皆様にご理解・ご協力をいただいている証と考えております。

カラオケ大会が平均的に行われる時間は6時間から7時間くらいと長丁場であり、大会で舞台上がる人は約110～120人位に昇りますので、一人当たりの歌唱時間は3～4分位となっております。また会場につめかけるのべ来場者は平均で1,200人位になり、その盛況さがうかがえます。カラオケ大会で使う音源の約70%がカセットテープを使用しています。その次にLD、CD、通信カラオケ、または生バンドで演奏する大会もありました。その中でもカラオケ大会の会場でキーチェンジャーの機器を使用していた大会は60%弱あり、市販商品そのまま使用するというカラオケ大会が増えていることの証明となっております。

カラオケ大会での使用音源形態



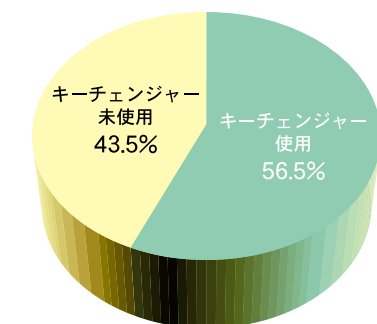
4. 訪問調査活動の総括

1997年5月から始まった実態調査ですが、専任の調査員が今まで訪問した総訪問件数はのべ18,623件にもおよびました。その内カラオケ教室には14,396件の教室に訪問しました。また、1,772件にもおよびる地方自治体へも訪問し、カラオケ教室などの各種音楽教室や愛好会・サークルなどに活動の場を提供している公民館、集会所などへのキャンペーン活動に対する協力依頼を行いました。※件数は全て延べ数

5. まとめ

この4年間の活動では、様々なカラオケ教室、愛好会・サークルへの訪問により、たくさんのカラオケ教室の関係者の皆様との出逢いがありました。この活動によって我々が実感したことは、カラオケ教室の関係者の皆様は演歌・歌謡曲を本当に愛しているということです。ときには交通の不便なところへも伺いました。雨の日も風の日も伺いました。雪が降っていようと、気温が38度になろうとも我々は足を運びました。それはひとえに演歌・歌謡曲を愛するカラオケ教室の関係者の皆様に本当に歌を愛する気持ちを伝えたいために、明るい未来を共に築いていくその思いを分かち合うために。これからも、我々の気持ちが皆様に届くよう活動を続けて参ります。

カラオケ大会でのキーチェンジャー導入率



広報ツールの作成・配布等

リーフレットの作成・配布



一般用



カラオケ教室先生用

ポスターの作成・配布



カラオケ大会・発表会用



レコード店用

レポート(活動記録)の作成・配布



97年度レポート

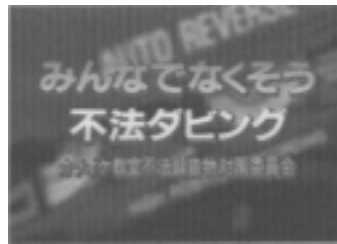


98年度レポート

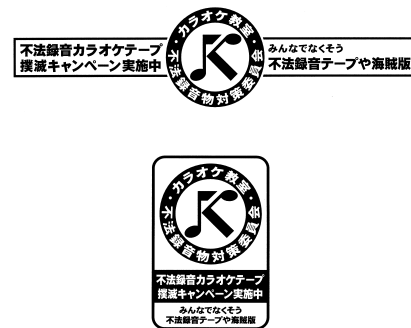


99年度レポート

広報ビデオの作成・上映



キャンペーンロゴの作成・活用



広報コンサート

「歌・想い…そして出逢い」～トーク&コンサート～

- 98年度** In 金沢 10/26 金沢市民芸術ホール
出演：三木たかし / (ゲスト) 乙田修三 / (歌手) 保科有里
- In 大阪 10/27 メルパルクホール
出演：遠藤実 / いではく / もず唱平 / 富田祥仁 / (歌手) 中村美律子
- In 熊本 10/29 熊本市国際交流会館
出演：荒木とよひさ / 中山大三郎 / (歌手) 神野美伽
- In 名古屋 10/30 東別院ホール
出演：中山大三郎 / (歌手) 半田浩二 / 田村恵

- 99年度** In 松山 12/6 松山市民会館
出演：遠藤実 / 松井由利夫 / 鈴木淳 / いではく / (歌手) 長谷川千恵 / (進行) 柳家さん喬
- In 宇都宮 12/16 栃木県総合文化センター
出演：船村徹 / 市川昭介 / (歌手) 黒木梨花 / 川久保由香 / 静太郎 / (進行) 柳亭燕路
- In 静岡 12/17 メディアホール
出演：松井由利夫 / 伊藤雪彦 / (歌手) 三代沙也可 / (進行) 柳亭燕路

- 00年度** In 札幌 10/7 S T Vホール
出演：彩木雅夫 / 荒木とよひさ / (歌手) 松尾聖二 / 千原早暁 / 工藤忠 / (進行) 鈴木ヤスシ
- In 仙台 10/24 仙台市青年文化センター
出演：鈴木淳 / たきのえいじ / 大谷明裕 / (歌手) 野中彩央里 / 長谷川千恵 / (進行) 吉川精一
- In 新潟 10/25 新潟県民会館
出演：遠藤実 / 鈴木淳 / いではく / (歌手) 長谷川千恵 / 田村恵 / (進行) 鈴木ヤスシ



懇談会

「みんなでなくそう不法ダビング」～演歌・歌謡曲の灯を消さないために～ (出席者) 地元カラオケ教室関係者・報道関係者及び作家

- 97年度** In 福岡 11/6 シーホークホテル(福岡)
出演：遠藤実 / 市川昭介 / 鈴木淳 / 中山大三郎 / 松井由利夫 / 三木たかし / (歌手) 浜野美砂
- In 広島 11/7 リーガロイヤルホテル(広島)
出演：遠藤実 / 鈴木淳 / 中山大三郎 / 服部克久 / 星野哲郎 / 松井由利夫 / 三木たかし / (歌手) 浜野美砂

- 98年度** In 札幌 11/11 札幌グランドホテル(札幌)
出演：遠藤実 / 鈴木淳 / 荒木とよひさ / 中山大三郎 / (歌手) 山形くるみ / 田村恵
- In 仙台 11/12 仙台ホテル(仙台)
出演：遠藤実 / 三木たかし / 荒木とよひさ / (歌手) 山形くるみ / 田村恵



著作権講習会・説明会

- 97年度 [17回] ビクター歌謡フォーラム(東京都港区) 矢野楽器店・鳴龍歌謡教室(福岡県北九州市)、日本大衆音楽文化協会(全国各地)他
- 98年度 [32回] 広島県歌謡指導者協会(広島県庄原市) K&A協会(愛知県豊明市) 西日本音楽文化振興会(大分県別府市)他
- 99年度 [21回] 四日市カラオケ連合会(三重県四日市市) 日本大衆音楽協会(静岡県熱海市) 滋賀県歌謡講師連盟(滋賀県守山市)他
- 00年度 [10回] 福井文化会館(福井県福井市) 西合志町教育委員会(熊本県菊池郡) 松戸市カラオケ歌謡協会(千葉県松戸市)他



メディア広告

テレビCM

- 15秒・30秒 テレビCM
 - 97年度 「みちのく演歌まつり」他 計7番組
 - 98年度 「昭介・稔の人生応援演歌」他 計11番組
 - 99年度 「サブちゃん」と歌仲間」他 計23番組
 - 00年度 「美空ひばり2000年スペシャル」他 計14番組
- 20秒 A・B・40秒 ラジオCM
 - 97年度 「美和子のどうですか、みなさん」 計1番組
 - 98年度 「うえちゃんの涙の電話リクエスト」他 計8番組
 - 99年度 「玉置宏の昭和ベストヒット歌謡」他 計16番組
 - 00年度 「みなと横浜歌の祭典」他 計17番組
- 出演 テレビ生番組
 - 98年度 「カラオケなんでもジョッキー」他 計2番組
 - 99年度 「おはよう三重」
- 出演 ラジオ生番組
 - 98年度 「集まれ演歌仲間」
 - 99年度 「水谷ひろしの大阪ヒートアップ」他 計3番組
 - 00年度 「ガッツ大阪・水谷ひろしのミレニアム歌謡曲」他計2番組

ラジオCM

20秒 Aタイプ
歌は創作者たちの魂の結晶です。今違法な録音が、演歌歌謡曲を危うくしています。カラオケ教室のレッスンには市販の商品をご使用ください。歌を可愛がってください。カラオケ教室不法録音物対策委員会からのお願いです。

20秒 Bタイプ
お父さんの好きな歌、僕が大人になっても聞けるかなあ。今違法な録音が演歌歌謡曲を危うくしています。カラオケ教室のレッスンには市販の商品をご使用ください。カラオケ教室不法録音物対策委員会からのお願いです。

テレビ生番組出演



メディア広告

- 97年度 朝日新聞、読売新聞(全国版)
- 98年度 スポニチ(全国版旬譜紹介) ブロック紙、地方紙
- 99年度 スポニチ(全国版旬譜紹介) 地方紙、リビング紙
- 00年度 スポニチ(全国版旬譜紹介) ブロック紙、地方紙、リビング紙
- 97~00年度 [業界紙]オリジナルコンフィデンス他 [カラオケ専門誌]カラオケfan他 計10誌
- 97~00年度 演歌 & 歌謡曲新譜ダイジェスト盤、あなたが育てる大阪はやり唄他
- 97~00年度 関西演歌大賞、北九州カラオケ演歌まつり、日本歌手協会歌謡祭、演歌華ざかり、名古屋城夏まつり他

新聞広告

業界専門誌

ポスター広告

チラシ広告・プログラム



ポスター広告



新聞広告



カラオケ専門誌広告

その他広報活動

- 98~99年度 神宮球場うちわ企画(ラジオCMと並行企画)
- 99年度 札幌夏まつりうちわ企画(テレビCMと並行企画)
- 00年度 よさこいソーラン祭り(テレビCMと並行企画)
- 札幌夏祭り(テレビCMと並行企画)
- 00年度 JR主要駅 東京、新宿、渋谷、池袋、品川に設置
- 00年度 「歌謡曲これイチバン」で実施

うちわ企画等

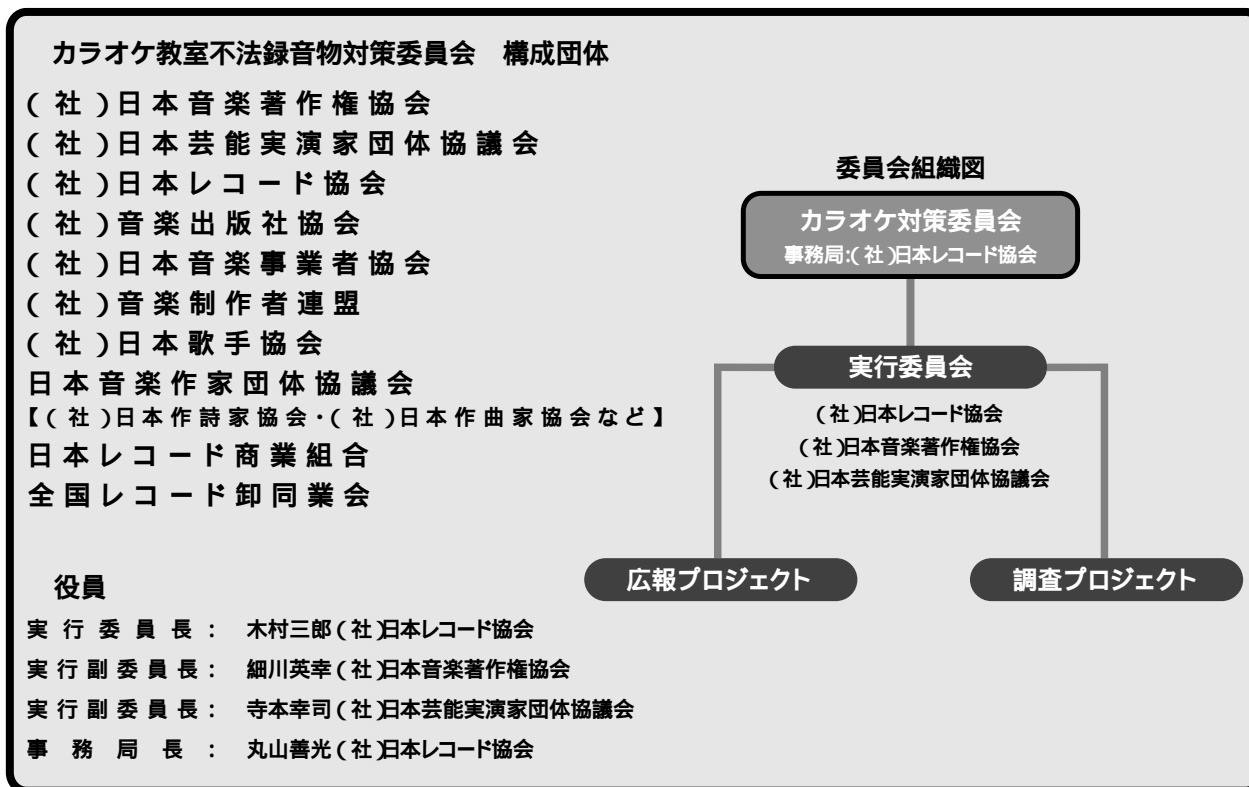
ステーションパンフレット

クイズ企画



●委員会設立の目的

全国に蔓延するカラオケ教室の不法録音物問題で、共通の立場におかれている音楽業界 10 団体が一致団結し、同問題に関する情報交換、著作権思想の普及・啓蒙、調査、指導・警告、摘発活動等の事業を推進し、もって不法録音物の撲滅、知的所有権保護、日本の音楽文化繁栄に寄与すること。



不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーン実施中
 みんなでなくそう不法録音テープや海賊版

●不法録音物対策委員会の発足●

1997年5月7日に発足した「カラオケ教室不法録音物対策委員会」の4年間に亘るカラオケ教室に対する著作権思想の普及・啓蒙、改善指導・警告等活動によりカラオケ教室における不法録音物の減少という顕著な成果をあげることができました。

しかしながら、一方では録音機器の発達により誰もが容易に録音ができ、それに合わせて不法録音も幅広く行われるようになっており、今後ますます著作権思想の普及・啓蒙活動の重要性が増しております。

そこで、今後は、今までのような一部の教室を対象とした活動から、音楽利用が不可欠な各種教室における不法録音まで、その活動範囲を拡大し、著作権思想の普及・啓蒙、改善指導・警告、摘発活動の支援を推進し、もって不法録音物の撲滅、知的所有権の保護、日本の音楽文化繁栄に寄与することを目的に共通の立場にある業界団体により「不法録音物対策委員会」が発足されました。

●不法録音物対策委員会 概要●

【構成団体】	(社)日本音楽著作権協会 実演家著作隣接権センター(CPRA) ・(社)日本芸能実演家団体協議会 ・(社)日本音楽事業者協会 ・(社)音楽制作者連盟 (社)日本レコード協会 (社)音楽出版社協会	(社)日本歌手協会 日本音楽作家団体協議会 (・(社)日本作詩家協会 ・(社)日本作曲家協会 他) 日本レコード商業組合 全国レコード卸同業会
【活動対象】	(音楽を利用する各種音楽教室・サークル) カラオケ教室、民謡教室、舞踊教室、新舞踊教室、社交ダンス教室、エアロビクス教室、音楽愛好会・同好会など。	
【役員】	委員長 木村三郎(日本レコード協会 専務理事) 副委員長 細川英幸(日本音楽著作権協会 常務理事) 事務局長 丸山善光(日本レコード協会 特別業務部部长) 事務局 日本レコード協会特別業務部	



1997～2000年
 不法録音カラオケテープ撲滅キャンペーン REPORT
 2001年6月30日発行

発行人 木村三郎
 発行 カラオケ教室不法録音物対策委員会
 事務局 社団法人 日本レコード協会 特別業務部
 〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル
 TEL03-3546-0471 FAX03-3545-6739
 制作 株式会社トービ



不法録音カラオケテープ
撲滅キャンペーン実施中

みんなでなくそう
不法録音テープや海賊版